

『BTSJ 日本語自然会話コーパス 2018 年版』の活用法の紹介と終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の分析 宇佐美まゆみ

本発表では、昨年公開された国立国語研究所『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018 年版』（以降、『BTSJ 日本語自然会話コーパス 2018 年版』）の特徴と活用法を、コーパスに同胞されている「データの情報一覧」というエクセルファイルを中心に紹介する。また、分析の仕方の一例として、終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の分析結果を示す。『BTSJ 日本語自然会話コーパス 2018 年版』とは、シナリオのない自発的な自然会話を、母語場面、接触場面の初対面会話、友人同士の会話、教師と学生の論文指導場面等のサブ・グループごとに、年齢や性を条件統制して収集した会話データをまとめたもので、1 会話 20 分程度の会話、333 会話（約 79 時間）が収録されている。本稿では、初めて知る方のために、改めて簡単に『BTSJ 日本語自然会話コーパス（トランスクリプト・音声）2018 年版』を紹介した上で、これまで紹介されていなかった「トランスクリプト・音声」以外に本コーパスに同胞されているその他の情報源（データ）を紹介し、コーパスと合わせて活用することを強く推奨したい。本発表では、本コーパスを利用した研究の一例として、先行研究でまとめたデータからさらに条件統制を行い、本コーパス 333 会話のうち、同一条件を満たす 155 会話をコアのデータ（学生話者の同等の相手との初対面会話、友人同士の会話）として抽出し、コーパス構築側の情報提供の一部として 155 会話という大量の会話における終助詞「ね」、「よ」、「よね」の使用実態の全体的傾向を提示した。ただ、今後、個人の研究者が、本コーパスを利用する際には、本稿で紹介した本コーパスに同胞されているエクセルファイルの「データの情報一覧」を活用して、各人の研究目的に適合する会話を、条件を明確にして抽出した上で、質的分析も加えてより細やかに分析することを奨めたい。大量のコーパスの中から、目的に応じて精選されたより少数の会話を用いて、談話の流れや、発話のやりとりといった「相互作用」を十分に考慮した質的分析を行うことは、語用論的分析の発展のためには、極めて重要だからである。